

鳥屋城山で発見された

モササウルスの化石を展示しています

地域交流センターALECでは、鳥屋城山で発見された、世界的にも貴重な化石と評価されているモササウルスの化石を展示公開しています（8月31日まで）。

モササウルスとは、恐竜と同じ時代に海の中で生息していた巨大なトカゲやヘビに近い生き物で、体長が10mを超えるものもあり、陸の王者である肉食恐竜に対して、海の王者とも呼ぶべき存在であったと考えられています。

モササウルスが鳥屋城山で発見されたのは平成18年のことですが、平成22年には本格的な発掘調査を行い、多数の化石を採取しました。その後、平成23年から約5年間かけて化石のクリーニング作業（化石の表面に付いている余分な石を取り除く作業）を実施してきましたが、この度作業が完了し、化石の全体像が明らかになりました。



鳥屋城山で発見されたモササウルスの化石は、残念ながら尾部は失われていましたが、頭骨、背骨、肋骨、前後の鱗の骨が見事にそろっており、日本一保存状態の良い、世界的にも価値の高い貴重なものであると考えられます。なお、体長は海外産の化石との比較から約6mであったと推定されています。

今後は本格的な研究が始まり、詳しい種類などを調べることとなりますが、新種に特定される可能性もあり、研究の進展が期待されます。研究期間中は化石を見ていただくことができなくなりますので、ぜひともこの機会にご見学ください。